

「いじり」は「いじめ」の一步前

吉木小学校五年 松永 礼

最近、テレビ番組を見ていると、だれかをいじっているところをよく見かける。ぼくはお笑いが好きで、自分も友達をいじって笑うことがある。

五年生になってテレビをよく見るようになり、アニメよりバラエティーの方が好きになった。いじっている芸人もいじられている芸人もみんなが笑い、ぼくも楽しい気持ちになる。番組で見たことを友達にしてみたり、自分のオリジナルのネタを作ったりしている。自分のネタで笑ってくれるとうれしいし、友達もぼくをいじったりして、とてもおもしろい。そして、ぼくたちを見て、みんなが笑ってくれるととてもうれしい。ときどき言い方が強くなってしまふことがあるが、みんなが笑ってくれるので、「まあ、いいや。」と思っていた。

でもある日、担任の先生から、

「いじりはいじめにつながりかねない。一步まちがえれば、いじめになってしまいます。」

と言われた。確かに言われてみれば、いじりを始めたころは、みんなで笑い合うくらいだったから、どんどんエスカレートしていることに気付いた。ぼくも相手が傷ついているとは思っておらず、「いじめなんて

しないよ。」と書いていたら、いじめの一步前まで書いていたのだ。

ぼくの言葉でだれかが傷ついていないか、ぼくが友達がきずついていることに気付かずに笑っていないか。ぼくが冗談で言っていたことが、だれかを傷つけていたなんて思いもしなかったし、考えようともしていなかったことに気付いたのだ。

だからぼくは、じょうだんで書いてだれかを傷つけないかをよく考え、自分の言葉に責任をもっていきたいなと思った。

このように、何気ない日常からいじめにつながることもあるし、自分の言葉でだれかを苦しめているかもしれないことに気付いた。自分はそのつもりがなくても、相手がいやだったらいじめになるし、周りがそれを笑うと、さらに相手を苦しめてしまう。いじめはとてもおそろしい。いじめは人を苦しめ、人生も変えてしまう力をもっている。日常のいたるところに、いじめにつながるものがあると思う。

「自分はだいいじょうぶ。」と書いている人も、いじめの一步前まで書いているかもしれない。

いじりは、「いじめ」になる前に止められると思う。今、友達をいじっている人には、いじめっ子になってほしくないと思うし、少しでもいじめがなくなるといいなと思った。